

第10回

白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会

日 時 平成27年10月7日
13:30～

場 所 白神山地ビジターセンター
会 議 室

議 事 次 第

- 1 開 会
- 2 東北森林管理局 森林整備部長 開会の挨拶
- 3 議事
 - (1) 平成26年度事業実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・（別添資料1）
 - (2) 平成27年度事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・（ " ）
 - (3) 西津軽郡深浦町内で確認されたマツクイムシ被害について（別添資料2）
 - (4) その他
- 4 東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター所長 閉会の挨拶
- 5 閉 会

協 議 会 委 員 名 簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	職 業 等
いし かわ ゆき お 石 川 幸 男	弘前大学白神自然環境研究所 教授
おお く ぼ つとむ 大 久 保 勉	日本山岳会 青森支部長
お ぎき ゆき お 尾 崎 行 雄	三陸森の会・弘南森の会 会長
きた ざわ ひさし 北 澤 寿	津軽人文・自然科学研究会 会長代行
こん ひろし 今 広	青森県西北地域県民局地域農林水産部 林業振興課長
そう ま みつ はる 相 馬 光 春	森林組合連合会（白神山地ビジターセンター館長）
た むら さ なえ 田 村 早 苗	青森県林業会議 参与
とう じょう あき ひこ 東 條 昭 彦	鱒ヶ沢町長
と ざわ てつ お 戸 澤 鉄 男	赤石川を守る会 会長代理
なが い かつ と 永 井 雄 人	白神山地を守る会 代表理事
にし だ ひで いち 西 田 秀 一	白神倶楽部 会長
まき た はじめ 牧 田 肇	弘前大学名誉教授
よし だ みつる 吉 田 満	深浦町長

協 議 会 委 員 出 席 者 名 簿

(五十音順、敬称略)

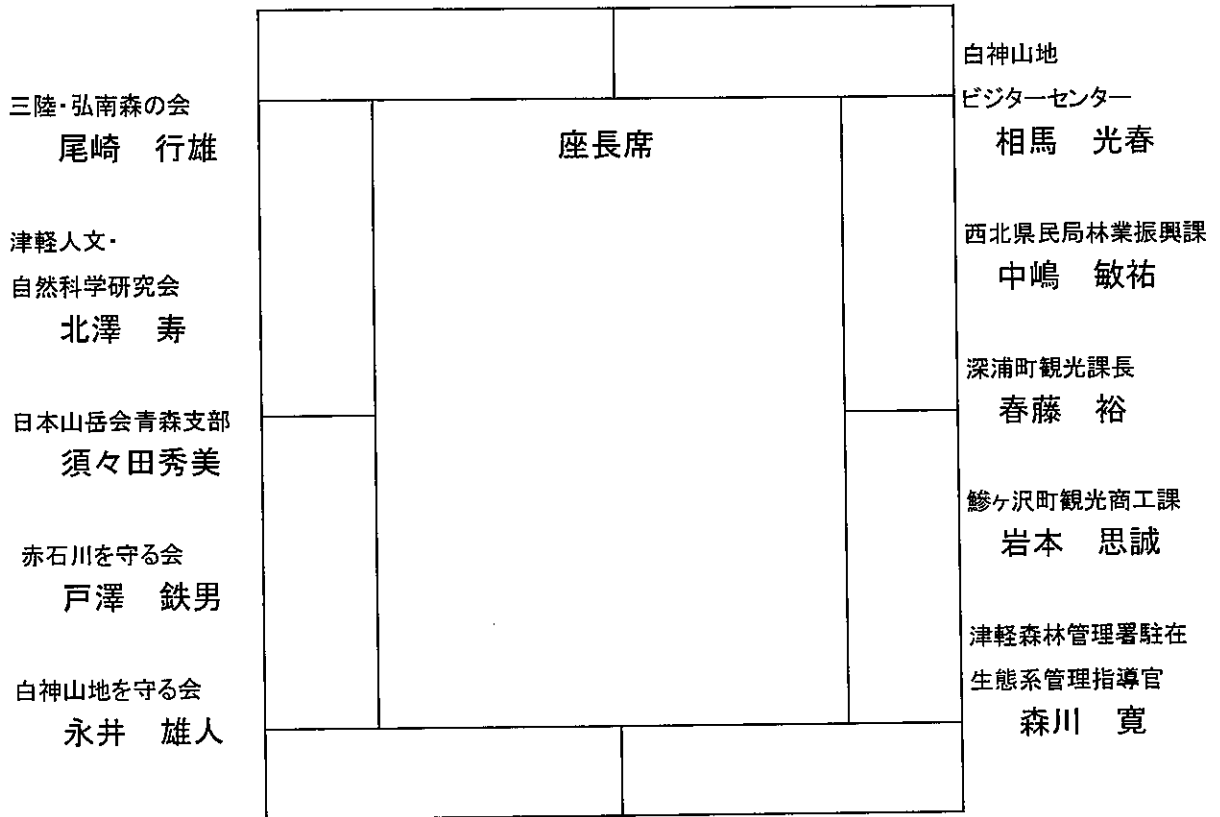
氏 名	職 業 等
石 川 幸 男	弘前大学白神自然環境研究所 教授
岩 本 思 誠	鱒ヶ沢町 観光商工課 班長 (鱒ヶ沢町長代理)
尾 崎 行 雄	三陸森の会・弘南森の会 会長
北 澤 寿	津軽人文・自然科学研究会 会長代行 (副会長)
春 藤 裕	深浦町 観光課 課長 (深浦町長代理)
須々田 秀美	日本山岳会 青森支部長代理
相 馬 光 春	森林組合連合会 (白神山地ビジターセンター館長)
田 村 早 苗	青森県林業会議 参与
戸 澤 鉄 男	赤石川を守る会 会長代理
中 嶋 敏 祐	青森県西北地域県民局地域農林水産部 林業振興課 主幹
永 井 雄 人	白神山地を守る会 代表理事
牧 田 肇	弘前大学名誉教授

事務局出席者名簿

氏名	役職名
飯塚 淳	東北森林管理局 森林整備部長
寺田 治男	東北森林管理局 企画官（自然再生）
石田 和彦	津軽白神森林生態系保全センター 所長
森川 寛	津軽白神森林生態系保全センター 生態系管理指導官 （津軽森林管理署駐在）
三浦 利樹	津軽白神森林生態系保全センター 自然再生指導官
有本 実	津軽白神森林生態系保全センター 専門官
川村 幸春	津軽白神森林生態系保全センター 行政専門員

第10回「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」(席図)

青森県林業会議参与 弘前大学名誉教授 白神自然環境研究所
 田村 早苗 牧田 肇 石川 幸男



東北森林管理局 東北森林管理局 東北森林管理局
 津軽白神センター所長 森林整備部長 企画官(自然再生)
 石田 和彦 飯塚 淳 寺田 治男



自然再生指導官 専門官 行政専門員
 三浦利樹 有本 実 川村幸春



報道関係者席

白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会設置要領

平成19年9月6日制定

平成25年6月28日一部改正

[名称]

第1条 本協議会の名称は、「白神山地周辺地域の森林と人との共生活動に関する協議会」(以下「協議会」という。)とする。

[目的及び設置]

第2条 協議会においては、白神山地森林生態系保護地域(世界遺産地域)周辺の保全管理及び自然再生活動、モニタリング調査等に係る事項について協議し、森林管理局長に提言することにより、この地域の円滑な管理運営を図ることを目的とする。

[協議事項]

第3条 協議会は、森林管理局長の求めに応じ、次の事項について協議を行うものとする。

- (1) 森林生態系保護地域周辺のNPO等と連携した自然再生活動及び森林環境教育に関する事項
- (2) 松くい虫等の対策に関する事項
- (3) モニタリング調査に関する事項
- (4) その他森林管理局長が必要と認める事項

[構成]

第4条 協議会委員の構成は次のとおりとする。

- (1) 委員は、学識経験者、地方公共団体関係者、NPO、ボランティア団体代表者等をもって構成する。
- (2) 委員は15名以内とする。任期は5年とし、再選は妨げない。

[運営]

第5条 委員会の運営は、次のとおりとする。

- (1) 協議会は、定例会年1回とし、必要に応じ臨時会を開催する。
- (2) 協議会の開催は、森林管理局長が招集する。
- (3) 協議会に座長を置く、座長は委員の互選による。
- (4) 座長は、協議会の議事を統括する。

[その他]

第6条

- (1) 協議会の事務は、主に東北森林管理局技術普及課において処理する。
- (2) この要領に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、座長が協議会に諮って定める。
- (3) 協議会の委員は、森林管理局長が委嘱する。

資料 1

平成26年度 事業実施報告

平成27年度 事業計画

平成27年度 白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会

平成27年10月7日

津軽白神森林生態系保全センター

○H26 第1回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H26.6.28	鱒ヶ沢内 東赤石山国有林 2061林班外	一般募集 13名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から広葉樹稚樹約200本を採取し、実施箇所付近の林内に仮植栽をした。 その後、奥赤石ブナ遺伝資源保存林を散策し、白神山地や周辺地域の自然環境や生態系について学習した。



作業実施上の注意事項などを説明しました。



道路法面からブナ外広葉樹の稚樹を採取しました。



採取した苗木は、付近の林内に仮植しました。



作業終了後、午後は遺伝資源保存林の散策を行いました。

○H26 第2回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H26.07.26	鱒ヶ沢町内 東赤石山国有林 2051林班	一般募集 15名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から広葉樹稚樹約100本を採取し、実施箇所付近の林内に仮植栽をした。 その後、くろくまの滝まで散策し、白神山地や周辺地域の自然環境や生態系について学習した。



道路法面などから採取した稚樹を、林内に仮植しました。



作業終了後、仮植した苗木の前で集合写真を撮りました。



作業終了後、午後はくろくまの滝の散策を行いました。



散策後、くろくまの滝の前で記念撮影を行いました。

○H26 第3回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H26.10.30	鱒ヶ沢町内 東赤石山国有林 2051林班	一般募集 11名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から採取した 広葉樹の種子約200個を、実施箇所付 近の林内に播種した。その際、一部試験 的にカミネッコンを使用した。 その後、くろくまの滝と紅葉の赤石溪 流線を散策し白神山地や周辺地域の自然 環境や生態系について学習した。



カミネッコンを使用して、広葉樹の種子を播種しました。



カミネッコンを埋めている様子です。



午後にくろくまの滝と赤石溪流線の散策を行いました。



くろくまの滝の前で記念撮影を行いました。

平成27年10月7日

津軽白神森林生態系保全センター

平成27年度自然再生活動拠点の列状間伐について

このことについては、当協議会の現地検討会を今年度の早期に開催し、列状間伐の実施にあたり、より広葉樹の侵入生育を促すための、伐採列の位置や方角等についてご審議いただく予定としていたところ、白神ラインの融雪災害による通行止めや、請負事業期間の関係から現地検討会を開催できなかった。

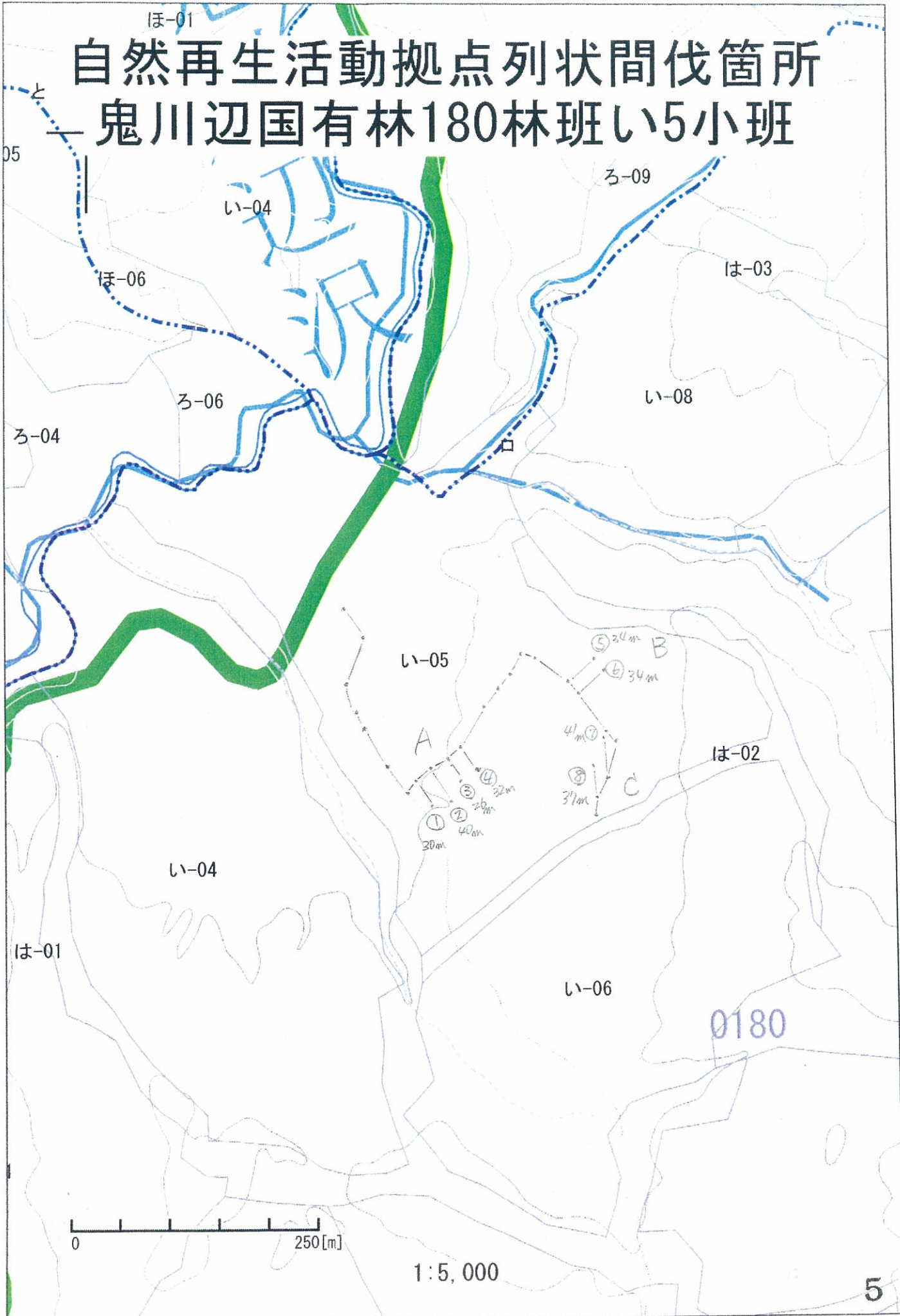
このため、本日の協議会の席上において、180林班の自然再生活動拠点における、列状間伐実施前後の状況について報告する。

西目屋村鬼川辺国有林180林班の自然再生活動拠点では、林地を列状に間伐し、その後の植生の生育状況などを調査することとし、次の3種類のプロットを設定した。

- A 搬出路に対して直角の伐採列
- B 広葉樹の区域ぎりぎりまでの伐採列
- C 日照を考慮して南北に設置した伐採列

これらのプロットについては、今年度、請負事業により伐採を完了したため、次年度以降改めて、当該自然再生活動拠点での検討会を開催したいと考えている。

自然再生活動拠点列状間伐箇所 — 鬼川辺国有林180林班い5小班





伐採前 ①



伐採後 ①



伐採前 ③



伐採後 ③

○H27 第1回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.07.04	西目屋村内 鬼川辺国有林 180林班	一般募集 7名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から広葉樹稚樹約100本を採取し仮植した。また、付近のスギ人工林の枝落としを行い、将来の自然再生にむけて良質な建材を確保するための一助となる作業を行った。 その後、ブナ林散策道を経由して暗門第三の滝まで散策し、白神山地や周辺地域の自然環境や生態系について学習した。



道路の法面、路肩などから広葉樹の稚樹を採取しました。



採取した稚樹は、付近の林内へ仮植しました。



付近のスギ人工林で枝落とし作業も体験しました。



午後からは暗門第三の滝まで散策をしました。

○H27 第2回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.07.25	西目屋村内 鬼川辺国有林 180林班	一般募集 8名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から広葉樹稚樹を採取し仮植する予定だったが、朝からの悪天候のため、午前中は白神山地ビジターセンターの展示を見学。 午後からは暗門のブナ林散策道を散策し、白神山地の自然環境や生態系について学習した。



雨天のため、白神山地ビジターセンターを見学しました。



午後は天候も回復したので、散策を行いました。



暗門の滝が不通のためブナ林散策道を散策しました。



アクアグリーンビレッジANMONでの集合写真です。

○H27 第3回自然再生活動

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.9.12	西目屋村内 鬼川辺国有林 180林班	一般募集 15名	○自然再生活動 実施箇所付近の林道法面から広葉樹稚樹約200本を採取し仮植した。白神ラインの工事箇所付近を通過することとなったため、白神山地の厳しい自然環境の様子を体感してもらうことができた。午後からは暗門のブナ林散策道を散策し、白神山地の自然環境や生態系について学習した。



道路の法面、路肩などから広葉樹の稚樹を採取しました。



作業終了後、仮植した苗木の前で集合写真を撮りました。



この日も暗門の滝が不通のためブナ林散策道の散策でした。



アクアグリーンビレッジANMONでの集合写真です。

問題点・課題等について

- 1 参加人員の確保が課題。特に平成27年度は一桁台の参加人数の回があったりと、盛況とは言いがたい状況もあった。
どのようにPRし、より多くの方々に参加していただけるかが課題。
- 2 参加者についても、一般参加者のみならず、企業、ボランティア団体など、多岐に亘るジャンルの方々の参加をどのように増やしていくかが課題。
- 3 また、平成26年度に自然再生活動に参加された一般の方々から頂いたアンケートの中では「作業時間を長くして欲しい」「採取する樹木と採取しないものとの違いを知りたい(再生の手法について詳しく知りたい)」などの要望が寄せられている。
- 4 一般公募や、児童対象の自然再生活動のメニューでは、植栽の希望が多く、活動拠点付近での稚樹の採取・植栽に偏りがちになっている。
熟練者向けのメニューの設定もあるものの、熟練した参加者の募集や、安全を確保した上での具体的な実施方法など検討が必要となっている。

平成28年度の対策について

- 1 「白神山地の自然再生」をメインにしたPR活動を推進する。
具体的には、プレスリリースの活用や、ポスター・チラシなどの配布設置をこれまで以上に進めていく。
- 2 白神山地の自然再生に貢献しているイメージを啓発するPRチラシなどを各企業や、ボランティア団体向けに配布して、参加者の底上げを図る。
- 3 参加者の皆さんの気持ちの間延びしないような、例えば午前と午後で作業を変えるなどのメニューを検討する。
- 4 林業の事業者、建築・造園業者などに、「白神山地の自然再生活動」をメインにしたPRをおこない、自然再生活動への積極的な参加を促す。
また、後継者育成の観点から、大学等との連携による中高生、大学生を対象とした自然再生活動の実施について検討を行う。



平成 27 年 10 月 1 日

弘南森の会
会長 尾崎 行雄

平成 26 年度自然再生関連事業実施報告

三陸森の会・弘南森の会

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H26.6.28(土)	弘前市相馬湯口山国有林 341 と林小班	7 名	○育樹活動 従前に広葉樹を植栽した箇所の下刈りを実施した。
H26.7.5(土)	弘前市相馬湯口山国有林 341 と林小班	6 名	○育樹活動 従前に広葉樹を植栽した箇所の下刈りを実施した。

平成 27 年度自然再生関連事業実施報告

三陸森の会・弘南森の会

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.6.27(土)	弘前市相馬湯口山国有林 341 と林小班	3 名	○育樹活動 従前に広葉樹を植栽した箇所の下刈りを実施した。

問題点及び課題

三陸森の会・弘南森の会

企業社員の到着に合わせて育樹活動進める為に、活動時間が少ない。

※参考 出席者団体

津軽森林管理署・津軽白神森林生態系保全センター・青森県森林組合連合会
青森県白神山地ビジターセンター・三陸森の会・弘南森の会・五農 08 会大鰐支部
大鰐山岳会・白神案内山の会・大鰐町有志山の会・津軽人文科学研究会
三菱東京 UFJ 銀行 CSR 推進本部・日本ユネスコ協会連盟

[津軽人文・自然科学研究会]

自然再生活動の取り組み

平成26年度

5月13日～5月23日 東岩木山国有林（スカイライン沿い）
ブナ、ミズナラ、ヤマモミジ 計 5,000本植樹

6月5日 鱒ヶ沢町 矢倉山国有林（日本ユネスコ植樹祭箇所）
つる切り・除伐

6月14日～6月22日 旧相馬村湯口国有林（遊々の森）
下刈り

6月28日 旧相馬村湯口国有林（遊々の森）
日本ユネスコ第3回育樹祭（下刈り）

7月 5日 旧相馬村湯口国有林（遊々の森）
日本ユネスコ第4回育樹祭（下刈り）

7月25日 東赤石国雨林（青森県ユネスコ植樹祭箇所）
下刈り・除伐

8月21日～8月23日 大鱒町居士国有林他9か所
日本ユネスコ植樹祭箇所の生育調査

2月26日 弘前市
育樹連絡会（関係団体による次年度の育樹祭及び育樹事業について）

平成27年度（予定）

5月28日 鱒ヶ沢町 矢倉山国有林（日本ユネスコ植樹祭箇所）
つる切り・除伐（都合により不実行）

6月3日～6月5日 大鰐町居士国有林他9か所
日本ユネスコ植樹祭箇所の生育調査

6月13日～6月19日 旧相馬村湯口国有林（遊々の森）
下刈り

6月27日 旧相馬村湯口国有林（遊々の森）
日本ユネスコ第5回育樹祭（下刈り）

7月25日 東赤石国雨林（青森県ユネスコ植樹祭箇所）
下刈り・除伐（県道白神ライン・町道赤石溪流線通行止めにより不実行）

2月 日 弘前市
育樹連絡会（関係団体による次年度の育樹祭及び育樹事業について）

平成26年度自然再生関連事業実施報告

公益社団法人日本山岳会青森支部

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H26.6.28～29	中赤石山国有林 2061林班 ～18,19,20小班内	一般募集12名	○自然再生活動 植樹したブナの周りの下草刈り、 不良生育杉の除伐、植生調査など
H26.10.4～5	中赤石山国有林 2061林班～ 18,19,20小班内	一般募集13名	○自然再生活動 植樹したブナの周りの下草刈り、 不良生育杉の除伐、植生調査など

平成27年度自然再生関連事業実施予定

公益社団法人日本山岳会青森支部

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.6.27～28	中赤石山国有林 2061林班 ～18,19,20小班内	一般募集	道路不通のため中止
H27.9.26～27	中赤石山国有林 2061林班～ 18,19,20小班内	一般募集13名	○自然再生活動 植樹したブナの周りの下草刈り、 不良生育杉の除伐、植生調査など

公益社団法人日本山岳会青森支部

これまでの自然再生の実施にあたっての問題点や、課題等についてお聞かせください。

参加者が高齢化しているので、若手、特に中高生、大学生への働きかけを強めたい。

平成26年度

自然再生関連事業実施報告

赤石川を守る会

年月日	実施箇所	参加者数	実施内容
H26.6.14	東赤石山国有林 2052林班札1/小班外4	5人	白神自然塾 遊々の森 歩道整備
H26.6.22	鯉ヶ沢町大学一ツ森町 学東赤石山国有林	3	くろくまの滝の沢の 歩道整備
H26.6.28 ~29	中赤石山国有林 2060林班と4小班内	5	広葉樹の森づくり体験林業 枝打ち、間伐
H26.7.12 ~13	同上		同上 (台風8号の影響で赤石溪流 線が通行止になった為中止)
H26.8.9	東赤石山国有林 2052林班札1/小班外4	5	遊々の森 下川及び 枝打ち
H26.8.22 ~23	中赤石山国有林 2060林班と4小班内		広葉樹の森づくり体験林業 (白神ラインの岩崎方面行が 通行止の為中止)
H26.9.20 ~21	同上		同上 (同上)
H26.10.4 ~5	同上		同上 (同上)
H26.10.11	東赤石山国有林 2052林班札1/小班 外4	5	遊々の森 下川及び枝打ち

平成27年度

自然再生関連事業実施予定

赤石川を守る会

赤石溪流線及び白神ラインが
全面通行止の為、活動計画を
立案出来なかった。

白神山地を守る会のH26.27年度の取り組みについて



H26年の白神山地ブナ植樹フェスタin赤石川の植樹祭は、6月29日100名程で、雨の中実施した。
H27年度は、赤石溪流線初め、県道28号線の崩落事故の為に、一切の植樹祭は中途となっている。
ただ、9月25日津軽森林管理署の担当職員と、植樹地の視察をし、来年度に向けて、一つは、2010年の植林地に下
草刈りと、昨年度の植林地の隣り1Haを10月中旬に、業者による地拵えを実施することになっている。

平成26年自然再生関連事業実施報告

白神倶楽部

26年度はありません。

平成27年自然再生関連事業実施報告

白神倶楽部

年月日	実施箇所	参加者	実施内容
H27.6.25	十二湖	岩崎中学校2学年 11名 他、引率3名	○森林教室・池巡り 針葉樹と広葉樹の違い。 樹齢約70年の杉を観察

資料 2

西津軽郡深浦町内で確認されたマツクイムシ被害について

平成27年度 白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会

平成27年10月7日

津軽白神森林生態系保全センター

平成27年9月17日
農 林 水 産 部

深浦町における松くい虫被害の概要

本年、深浦町広戸地区周辺において発見された松くい虫被害への対応について、概要は以下のとおり。

1 被害の場所等

- (1) 場 所：深浦町大字広戸地区（6箇所）、追良瀬地区（1箇所）
- (2) 被害木：マツ32本（クロマツ23本、アカマツ9本）
- (3) 位置図等：別紙のとおり

2 これまでの経緯

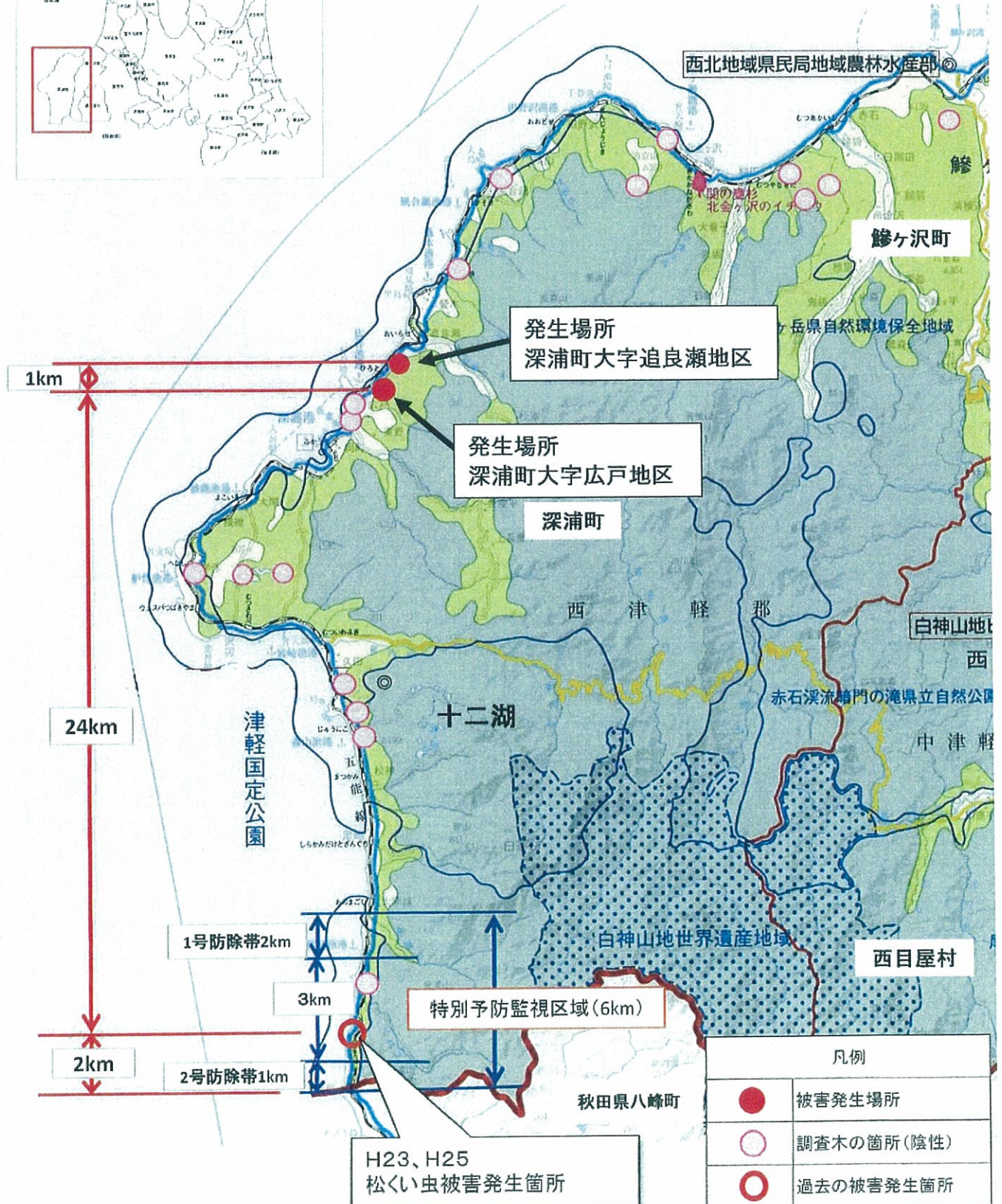
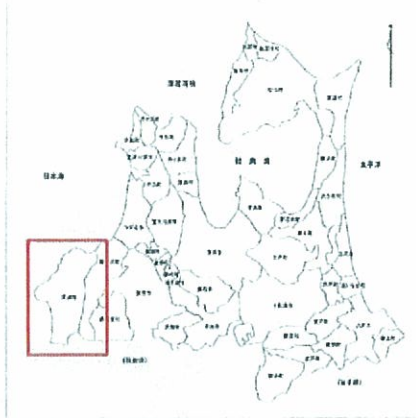
(1) 被害発生及び現在の状況

- ① 県防災ヘリコプターの上空探査により発見した深浦町広戸地区のクロマツ枯死木について、（地独）青森県産業技術センター林業研究所が行った簡易鑑定で陽性反応が出たため、（国研）森林総合研究所に同定を依頼した結果、「陽性」と判明（7月17日）。
- ② 被害木の周辺から秋田県境までの目視調査、県防災ヘリによる鱒ヶ沢町での上空探査、被害木周辺のヤニ打ち調査等の結果、9月4日までに累計32本の被害木を確認。
- ③ 被害木は、全て伐倒・くん蒸処理済み。ヤニ打ち調査でヤニが出なかった異常木についても全て処理中。

(2) 被害対策の検討

- ① 第1回松くい虫被害対策検討会を開催（7月23日）
 - 被害は点的であり、青森県松くい虫被害防除マニュアルに基づき被害木の伐倒・くん蒸処理を徹底すること
 - 秋までの被害動向を把握した上で、対策の検討・確認が必要で、薬剤散布については、慎重に検討すべき
- ② 松くい虫被害専門家対策会議を開催（9月10日）
 - 発生要因については不明だが、県境から広がったのではなく、突発的なもの
 - 被害木を確実に発見し、伐倒・駆除すること
 - 来年度、被害本数の増加や被害区域が拡大した場合は、新たな対策の検討が必要
 - 広戸地区等の被害を受けたマツ林においては、監視のしやすさや繁殖・感染源除去のため、林内の整理等を行うこと

松くい虫被害発生位置図



深浦町における松くい虫被害の発生



被害木の伐倒・くん蒸処理

簡易鑑定で陽性 **ただちに** 伐倒・くん蒸

森林総研へ同定依頼、7月17日被害が確定



伐倒、材片採取

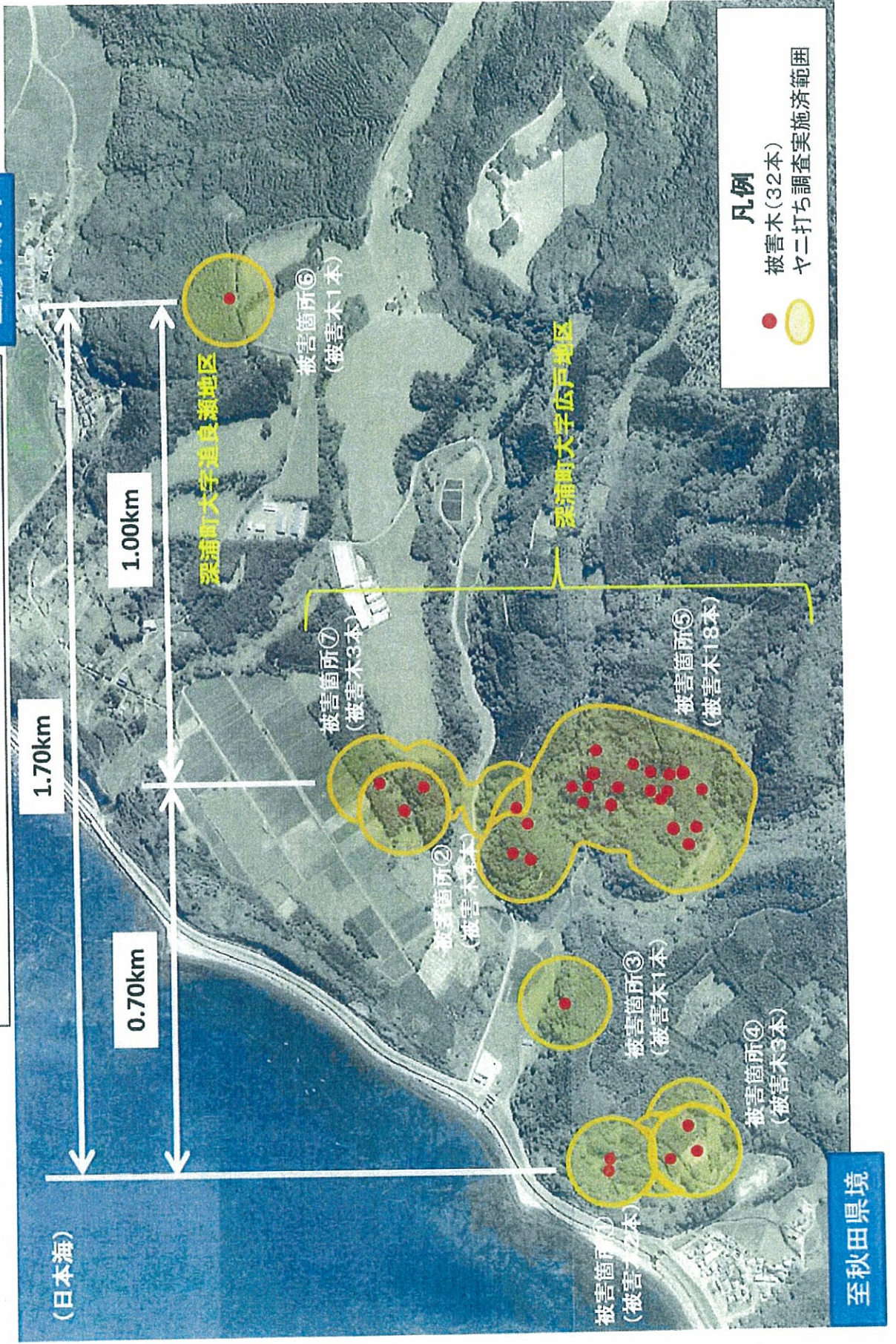


皮はぎ(確認)



くん蒸終了

被害木の位置及びヤニ打ち調査区域図



津軽森林管理署におけるマツクイムシ対策の取組

1. 現状

現在、津軽森林管理署管内においては、マツクイムシ被害は確認されていません。

これまで、疑いのあるクロマツ45本（深浦町）について、森林総合研究所東北支所へ鑑定依頼をしたところ、いずれも陰性との結果となっております。

当署では、被害の早期発見、早期対策のため職員による巡視を実施しているところ
です。

また、青森県と共同で、年に数回、ヘリコプターによる上空からの探査を実施して
いるところです。

引き続き青森県と情報共有しながら、予防対策を進めることとし、森林総研等専門
家の意見を踏まえつつ、関係機関と連携して要望対策を講じていく考えです。

2. 被害発生時の対応

仮に、マツクイムシ被害が発生した場合は、東北森林管理局の担当課と連携を図り、
防除対策をすることになります。

一般的には、被害木の伐倒くん蒸処理による防除対策を行うこととなります。